仮面ライダーwithゆっくり

デント

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

仮面ライダークウガの１０年後の物語です。

クウガファンの方の中には怒られる方もいるかも知れませんが、ゆっくり見ていって下さい！

目次

EPISODE.0 序章 ―――― 1

ＥＰＩＳＯＤＥ．０　序章

これは、未確認生命体４号『仮面ライダークウガ』と
他の未確認生命体『グロンギ』との戦いから１０年の年月が経ち、人間は平和に暮らしていた。
その中、人間や他の生物の他に、不思議な生物が誕生した。
その名は『ゆっくり』。正式名称は『饅頭型不思議生物』。
彼らは人間の何千倍も何万倍も弱く、虐げれたり、殺されたりしている。
だが、性格のいいゆっくりは、人間と上手くやっていて、可愛がられたりもしている。
その時代に、ある青年の目の前にゆっくりがいた。
彼の名は『小野寺　ユウスケ』。そして目の前にいたゆっくりは『れいむ』、『まりさ』、そして『ルーミア』だった。
「ゆっくりできないどうつきのるーみあはせいっさいなのぜ！」
「なんだよ！」とれいむ達が言う。どうやらルーミアはいじめられているようだった。
しゃーなしやな。ユウスケは拳を握った。
ユウスケはその拳をルーミアをいたぶっていたまりさに向け振り下ろした。
「ゆびゅ!!」まりさは無残に潰れた。
ユウスケがその拳に付いた餡子を振り払うと、れいむがユウスケのすぐ真下でれいむが必死に『ぷくー』をした。
「どうしたんだよ。そんな顔して。」
ユウスケがれいむに向かって言うと「にんげんざんばどぼじでごんなごどずるのぉぉぉ!!!でいぶば何もじでないのにいぃぃ!!」とぷくーを解除して喚いた。
「は？・してんだろうがよ、じゃああのルーミアはなんなんだよ！」ユウスケがれいむに怒鳴る。ルーミアの顔はボロボロだった。周りの一般人も見ていたが、ユウスケは気づいていなかった。
「あのぐずばごろじでいいんだよ！・いぎでるだげでづみなんだよ！」

れいむは少し落ち着いたのか、口調が戻っていたが、まだ鼻声だった。
「なるほどな。じゃあお前らは俺にとってクズだ。だから、殺していいんだよな？」ユウスケはれいむを思いっきり蹴った。
　それから数時間後、ルーミアは目を覚ました。
「ん？ここは…」ルーミアは辺りを見渡す。
「あ、起きたか。」ルーミアの目の前にいたのは、先程れいむ達を殺した男、そう、ユウスケがいた。
「ひっ…」ルーミアは少し後ずさりをしたが、「安心しろ、俺はお前をいじめたりしないさ。善良だからな。」
　ユウスケが笑顔でそう言うと、ルーミアは笑顔になった。
「胴つきのお前に言うのかわからないけど、ゆっくりしていってね！」ユウスケが言うと、ルーミアは満面の笑みで「ゆっくりしていってね！」と返した。

　その日、多くの人間が行方不明になったのもしらずに…